令和５年度地域の絆づくり事業　第２回講座
「ジモトーク de みんな一緒に○○内海!!」

令和５(2023)年 11 月 10 日(金)14:00～16:30
海南市立第三中学校（参加者２３名）

【これまでの経過】
　第１回講座開催後、地域の大人を代表して、公民館長、学校運営協議会委員、更生保護女性会員らを中心に、ジモトーク企画委員を組織した。
　１０月に、初めて第三中学校の生徒１２名に参加してもらってジモトークを開催し、３，４名のグループに分かれて語り合った。
　語り合いは盛り上がり、アンケートに地域の大人からも中学生からも「またやりたい」、「時間が足りなかった」という前向きな意見が多かった。

１．ゲスト：大畑伸幸さんのお話

未来の担い手と共にまちを元気に！
～世代をつなぐ、丁寧につなぐ～

《大畑　伸幸（おおはた　のぶゆき）　氏》

・島根県益田市の中学校で校長を歴任された後、益田市教育委員会でひとづくり推進監として、地域の社会教育推進活動に取り組んでこられた
・中でも、こどもが、大人との対話を通して互いに信頼関係を築くことで、地域や地域の大人の魅力に気づく「益田版カタリ場」の取組は、益田市で盛んに実施され、大きな成果を挙げられた
・大畑氏の取組は、文部科学省でも高く評価され、中央教育審議会の生涯学習分科会において、地域でどのように社会教育を充実させていくかをテーマに発表された
・20 年以上、地域活動に取組まれ、地域のこどもからは「ボス」の愛称で親しまれる
・現在は、NPO 法人おむすび代表として、さまざまな取組を続けられている

○今のこどもの特徴

・友達同士で過剰なくらい気を遣う

・失敗はだめだと考えがち

※家庭や学校で「ちゃんとせえ」、「はやくせえ」、「まじめにせえ」と言われすぎている

・気を遣わずに話せる相手を必要としている

○取組のきっかけとなった当時の益田市の状況

・地域活動の担い手不足

・こどもの教育について、学校任せ、親任せの傾向

・益田市の人口流出（高校卒業時に、高校生の多くが市外に転出）

・「益田には何もない」と言って益田を出てしまう人は、戻ってきたとしても「しかたなく」帰ってくるため、地域活動や伝統産業の担い手となることは難しい

○益田版カタリ場とは

小学生×高校生、中学生×地域の大人、高校生×企業の大人などによる **1 対 1 の対話をとおして、互いに関係を深め、さまざまな活動につなげる**

→　人とつながりが、都会ではできないことを可能にしてくれる！

→　人とのつながりは、財産になる！

→　親でも先生でもない大人との関わりがこどもには必要！

→　家庭と学校以外で関わる大人との出会いを広げる！

※なんでもいいから、地域の大人とこどもが一緒になって活動することが大事

〇益田版カタリ場から生まれた活動

・公民館を拠点に茶話会や BBQ など

→　声をかければ、参加者や協力者が集まった

・公民館のリノベーション

→　中学生と地域のいろんなスキルを持った人が集まって活動

・公民館に立ち寄るこども増えると、地域の人も集まった

→　良好な関係が自然とできる

・月一回集まっていろんなことをやった（「なんかしたいなー」）

・公民館の文化祭にこどもが出し物をした

○こどもの変化

- 地域の人が色んなスキルを持っていることにこどもは気づく
- **公民館の文化祭にこどもが出し物をする（一人の大人として対応）**
  - **→　行事をとおしてこどもが成長する**
- 地域に対する意識
  - →　将来、益田に住みたい若者が増えた（成人式での調査）
  - →　益田に魅力的な大人がいることに気付かせることができた

〇内海ジモトークでもこんなことが大事！

- こどもの「やってみたい」をとにかくなんでもいいからやってみる
- **こどもを「こども扱いせず」一人の大人として接する**
- 家庭や学校では失敗しないように教わるが、地域の大人は「失敗してもいい、大人も失敗する」、「できなかったら、できまでまたやればいい」と言ってくれる
  - **→　こどもが安心する**
- 公民館は、こどもからお年寄りまで集まって、楽しんで、いろんなことをする場所
  地域の課題をどうするかとか難しい話は置いておいて、「楽しく集まってお茶でも飲みながら何かするかー」というような余白がある方がみんな集まりやすい
- **「なんかわからんけどお茶飲んで話して楽しかった」でいい！**
  - →　こどもが「○○したい」と言いはじめる
- その中で出てきた「何か一緒にやってみようか」が実現できる場所にすればいい

〇益田市のこれから

進学や就職で益田を出たとしても、いろんな経験をして、いろんな人脈をつくって、どこで生活をしよう、どこでこどもを育てようと考えたときに「やっぱり益田で生きよう」と思ってもらえることをめざしている。

地域のこどもと大人の関係を丁寧につないでいくことで、担い手不足の問題は解消されていく。

Ｕターンが劇的に変わることはなくても、益田に戻ってくる人たちが、「今度は自分たちが地域のこどもたちのために」という意識で地域に関わってくれるという循環が生まれる。

こどもが接着剤になって地域をつないでくれる。

こどもがいれば大人が元気になる。

〇大畑氏の思い

こどもは、経験して学んだことを自分の言葉で話せるようになる。だから、**地域での経験はこどもの実力になる。**

親や先生だけじゃなく、助けてくれる人がたくさんいるから安心して立っていられる。これこそがれ自立だと思う。

こどもが語り合う活動を通して、地域の大人と関係を築き、一緒に活動することで実力をつける。こども自身も成長を実感できて、やってよかったと思えるようなるし、このことに関わった大人も元気になる。これが、将来幸せな地域になるための種まきだと考えている

２．地域の大人によるジモトーク

中学生×地域の大人　１対１の対話

① 人生グラフ

② 内海地域でやってみたいこと

３．内海ジモトークの様子をみた大畑氏の感想

益田市でも、こんな風に地域の小学生や中学生、高校生がしゃべる。学校の先生が見たらこどもがこんなにしゃべるのかと驚かれる。今日も中学生がすごかった。

中学生が、アップダウンの激しい自分の人生グラフと地域の方のなだらかな人生グラフを比較して、「僕も４０歳か５０歳ぐらいになったら、この凸凹がなだらかなグラフになるかもしれないな」と言ったのを聞いて、そうだなと思った。

話したことを地域活動につなげなければならないということではなく、地域の大人と話せたことが楽しかったと思うので、また話す機会を公民館などで作って続けてもらいたい。

その中で、「何かやりたいな」という気持ちが出てきたら、地域の大人は「任せとけ」と言ってくれるから、まずは、学校の外で気軽に楽しくおしゃべりする「おもしろいな」とおもえるような時間をぜひつくってほしい。

益田市でも語り合いに参加した中学生は元気になっている。

４．ふりかえりシートから

1 ふりかえりシート回答者

全体	企画委員	中学生	一般
23	9	11	3

※中学生が1名、一般参加者として回答したと思われます。

2 グループの人数について

3 トークテーマについて

4 ジモトークに参加して

5 ジモトークについて、もっとこうした方がいいと思うこと

【企画委員】

中学生がとても真剣にたくさんはなしてくれて、おもしろかったです。
15才という人生、すごく色々あってそれをユーモアたっぷりにはなしてくれて、中学生ってすごい!!
街作り等、中学生の意見をもとに協議できるような事をしたい。
（ジモトークの）時間をもっと長く。
60年の生活経験のちがいが大きい。
大畑伸幸氏の話最高でした。ありがとうございました。
コロナ、病気での落ち込み…、まずは健康ですね！
年4回は絆づくり（ジモトーク）しましょう。
共有できる所もあり楽しかった。
今の中学生と昔の中学生のちがいがわかるから楽しい。

【中学生】

もう少し（ジモトークの）時間がほしいです。
（ジモトークの）時間が足りない。
人生グラフで相手の方といろいろ話をひろげながら楽しく交流できました。
もう少し長くお話できたら良いのにと思いました。
改善もなく、このままの感じのジモトークを広げいってほしいです。
1対1ではなく、2対2で話す方が話が広がると思う。
（ジモトークの）時間がもっとほしい。
（ジモトークを）またしたいと思った。
中学生1人と、大人2人でもおもしろい話合いができると思います。